

12	当村御城跡取調書上帳	天保15 (1844)年	河原浜区有文書	P1803	No.133
----	------------	-----------------	---------	-------	--------

これは勢多郡河原浜村（現・前橋市河原浜町）が、村内にあった大胡城について報告した文書です。

大胡城は戦国時代、大胡氏や北条氏（きたじょうし、元・上杉家家臣）が城主でした。元禄期に前橋藩酒井家が幕府に提出した「元禄十五年上野国絵図」（1702年、群馬県立文書館所蔵、県重文）は、「古城跡」が大胡城を含む6城描かれています（下記画像、紺色の線は城跡東方を流れる荒砥川）。多数残っていた城跡のうちでも重視されていたことがうかがえます。

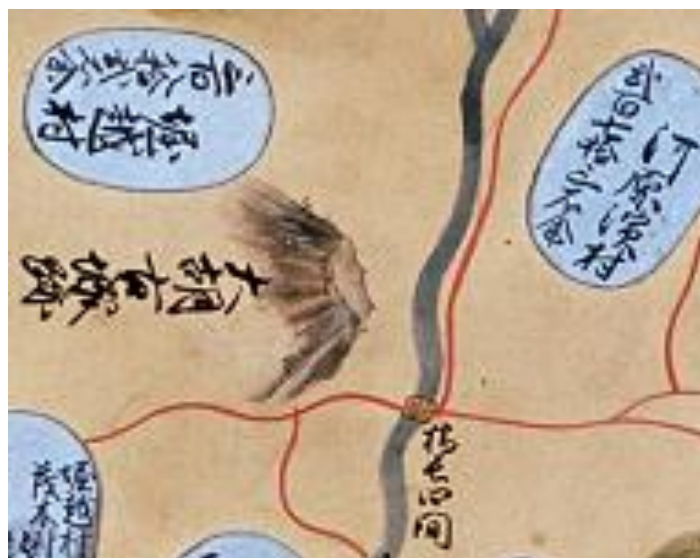
本文書によれば、天正18（1590）年、徳川家康の関東入国に伴い、家康の家臣・牧野氏が城主となりますが、元和2（1616）年に越後国長岡へ転封となると、「追々破城」となり、現在は下記の状態であると書かれています。

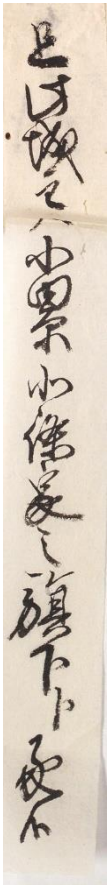
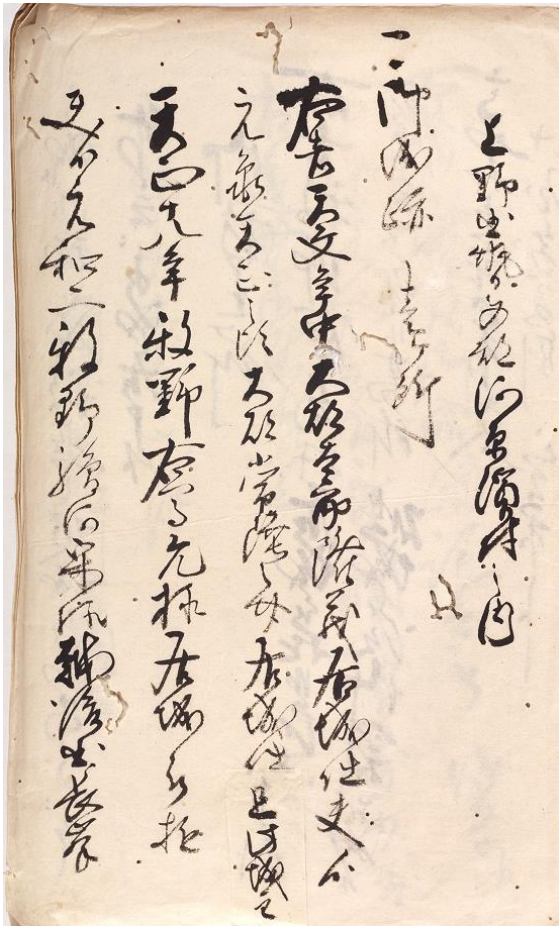
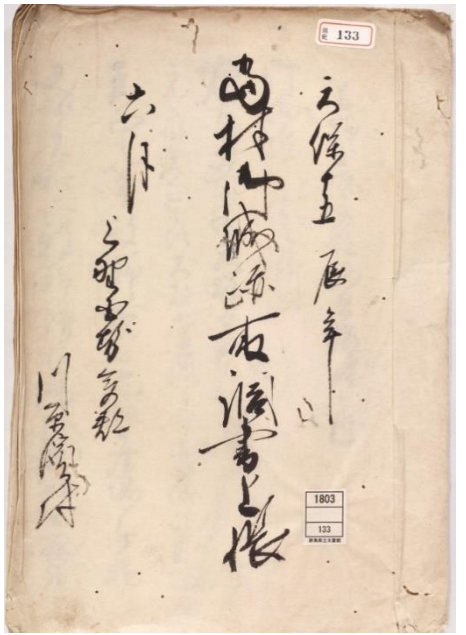
- 「御城跡」は「竹立」＝竹が林立している。
- 「御家中」の屋敷3反20歩（約920坪）は「御藪」となっている。

掲載部分の続きには、雪で折れた竹が城跡に60本、御藪に700本あり、「下草」を採ることができず困っているのを片付けたい、という願書が写されています。相当な竹林が広がっていたことがうかがえます。

河原浜区有文書には大胡城跡に関する文書が比較的多くあり、竹を用水・堰の修復（普請）に用いたり、売却して利益を得たり、城跡を畑や「御林」に変えていました。江戸時代の村人による城跡の活用がわかる興味深い史料です。

なお、大胡城址は現在も立派な本丸・郭（くるわ）・門・掘切りなどの遺構があり、平丘城の様子を偲ぶことができるスポットとして知られています（県史跡）。





付箋

元禄十五辰年
 当村御城跡取調書上帳
 六月 上野国勢多郡
 川原濱村

上野国勢多郡河原濱村之内

一御城跡 壱ヶ所

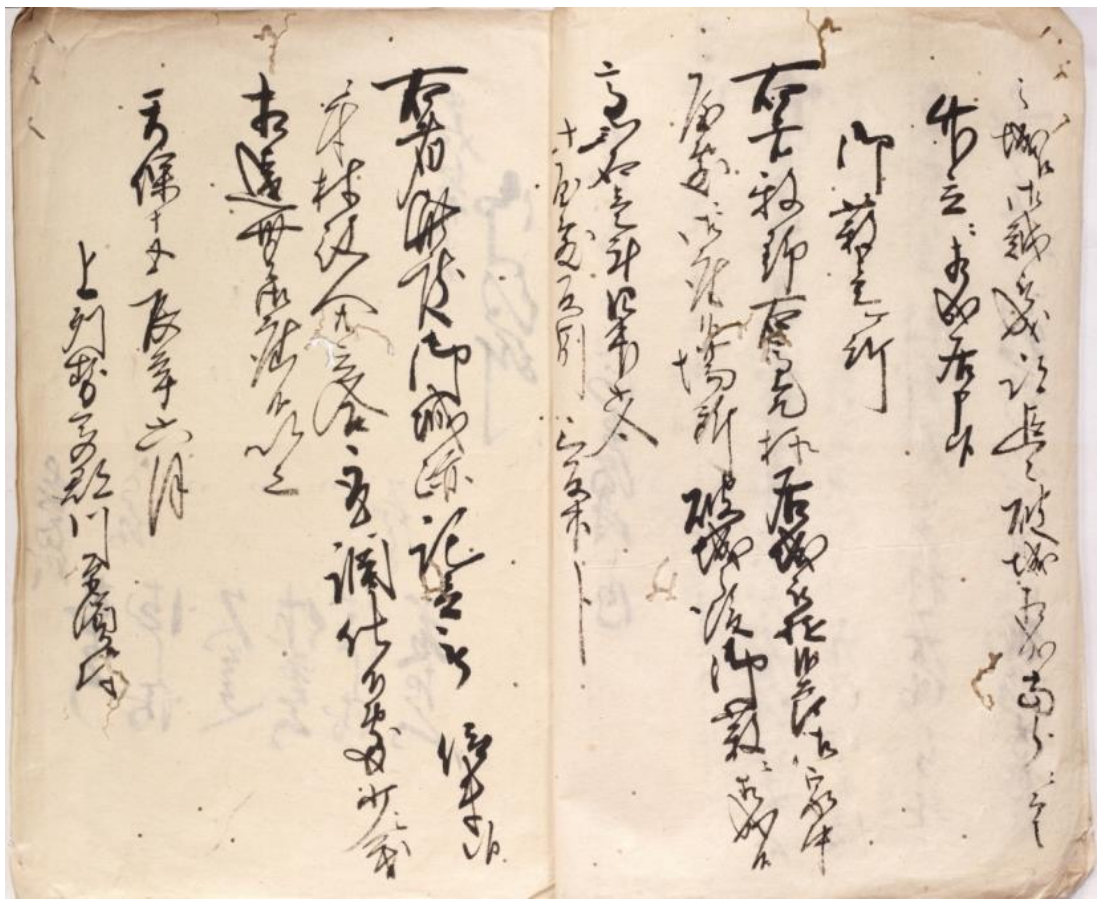
右は天文年中、大胡太郎隆義居城仕り、それより

元龜・天正の頃、大胡常陸介居城仕り、

(付箋)「かつ、この城主は小田原北條家の旗下と承り候」

天正十八年、牧野右馬允様居城遊ばされ、

それより元和二(年)、牧野駿河守様、越後国長岡



の城へお越し成らるる跡、追々破城相（あい）成り、当分にては竹立ちに相成り居り申し候

御藪ヶケ所

右は牧野右馬允様居城遊ばされ候節、御家中屋敷にござ候場所、破城の後、御藪に相成り候

高式石巻斗四升六合

この屋敷反別三反廿歩

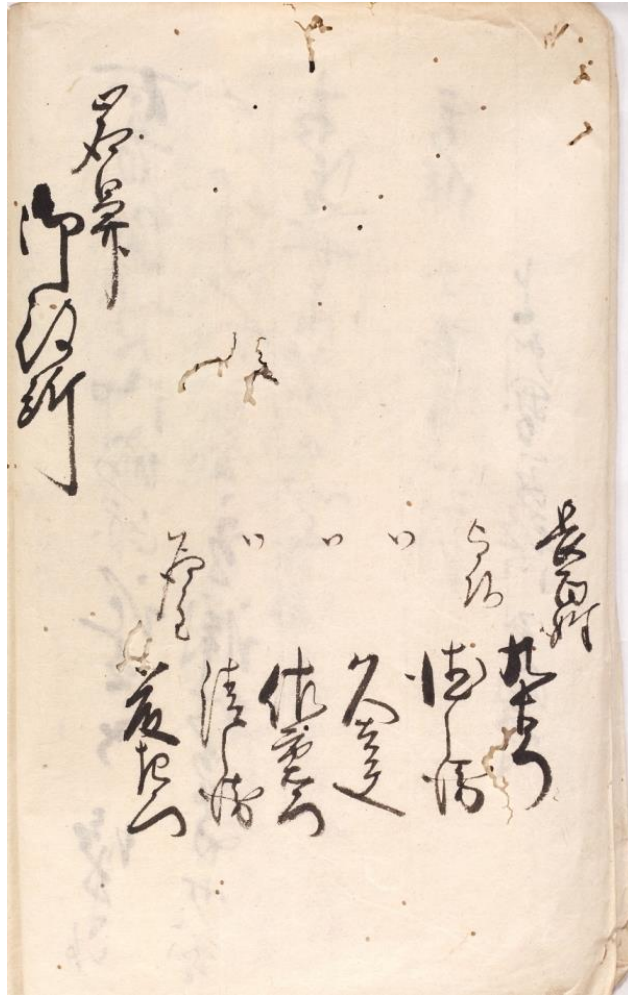
右はこの度、御城跡記言（カ）仰せ付けられ候

に付、村役人共立ち合い取り調べ仕り候処、少しも

相違ござ無く候、以上

天保十五年六月

上州勢多郡川原濱村



岩鼻御役所

(後略)

名主	同	同	同	与頭	長百姓
藤左衛門	清兵衛	佐市右衛門	久太夫	徳兵衛	九右衛門